

一月同朋会 休止します

新型コロナウイルス感染予防のため、一月の同朋会を休止いたします。毎年一月は新年会ということで、場所を移し、お食事をしながら歌ったりおしゃべりしたりと楽しい時間を過ごすのが常でしたが、今はなかなか難しい現状です。できれば中止ではなく延期として暖かくなった頃、親睦会を持てればと考えています。楽しみに春を待ちましょう。

今月のことば

ひと 俱に ところ 会
一 處 であう

『仏説阿弥陀経』の俱会一処（くえいっしよ）という言葉です。どんないのちも、選ばれず、嫌われず、見捨てられずにもとにも出会えるところがある。そういう処（ところ）を生きたいという願いを、誰もが持っているのではないのでしょうか。

境内の花々



雪景色

編集後記に替えてー 坊守の独り言

「ジュタと三本脚のタマちゃん」

二〇二〇年が終わります。一年前にはマスクがないと外出できない生活になるとは想像もしていませんでしたし、「どんなことでも起こり得るのが人生だ」という言葉をまた、噛みしめ直した一年でもありました。

わが家では長女が大学進学のため家を離れ、それと入れ替わるように二匹の保護猫を家族に迎えました。一匹は、車のエンジンルームに入り込んで大声で鳴いていた黒猫ジュタ（『寿多』喜びをたくさん運んでくれる猫）。そしてもう一匹は、瀕死で保護され、左後脚を断脚せざるを得なかった白黒猫タマ（『珠円』足りないところの何もない大切な宝物）。どちらもオス猫、共に保護当時生後三ヶ月にも満たない小さな仔猫でした。

このジュタとタマちゃん、兄弟でもないのにとっても仲良しです。天真爛漫怖いものなしのジュタと、慎重で愛情深くて意外と強気なタマちゃん。ほんの小さなときに過酷な経験をしたタマちゃんですが、ジュタのおかげで割とすんなり人間との生活にも溶け込み、おかげさまで毎晩私はこの二匹と丸くなって寝ています。

どんなことにも学びはありますが、この猫たちにも学ばせてもらうことがたくさんあります。タマちゃんは脚が一本ないので、ジュタのように高くジャンプすることができません。高いところで寛ぐジュタを下から見上げて「ニャン」と声をかけていることもあります。でも、そのことで卑屈になったりいじけたりすることは絶対にありません。踏み台を利用し遠回りをして自分の行けるルートでお気に入りの場所を確保して、とっても満足げに体をペロペロ舐めてやすやすや寝ています。ジュタの方も、果たしてタマちゃんの脚が一本ないことに気づいているのかどうか？疑問ですが、そのことでタマちゃんを判断したり、過剰に気を遣ったりすることもなく至って自然に振舞っていますし、なんなら猫プロレスでは一本しかない後ろ足を狙って払い技をかけ、私が冷や冷やさせられています。

私たち人間はなかなかそういう訳にいきません。他人と比べ自分を卑下したり、病気やケガや外見でその人を判断したり。自然に振舞おうと思ってももう、そう思うこと自体が不自然なうまうまいきません。では、猫になればいいのか。残念ながら人間は猫にはなれません。が、ウィルスや情報に怯え、思うようにいかない子育てや慌ただしい生活に疲れて、心乱される毎日に（猫ならどうするか）と思ったりもします。

今年も大変お世話になりました。どうか穏やかにお過ごしください。

